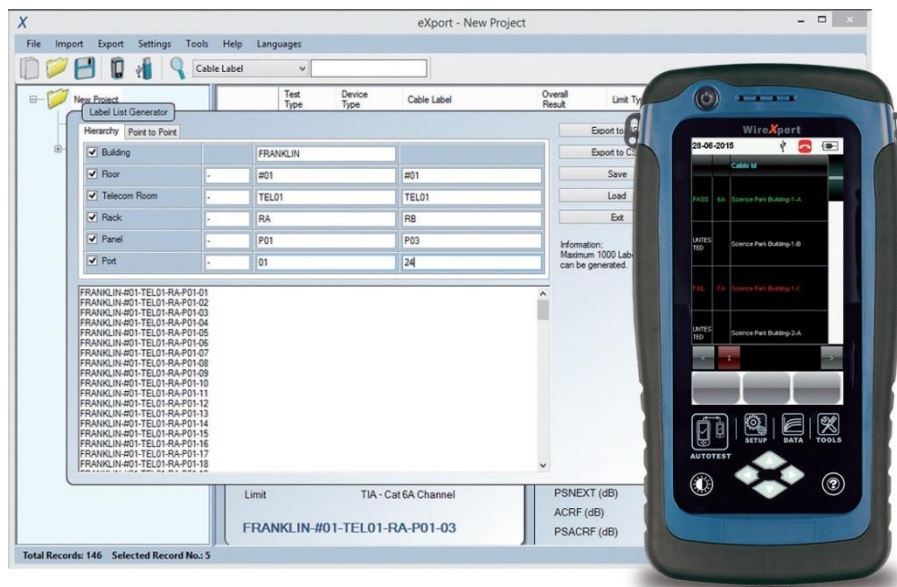


# Wire **X**pert

## 4500/500



## ワイヤーエキスパート専用ソフトウェア eXport 取扱説明書

【Version 9.0 : 02 版】



本製品の使用前に必ず取扱説明書をお読み下さい。



本取扱説明書は英文取扱説明書の一部邦文訳ですが、全てにおいて英文取扱説明書の補助手段としてご使用ください。



## 目次

1.	はじめに .....	3
1.1.	プログラムの実行 .....	3
2.	プロジェクト管理 .....	4
2.1.	ファイル管理 .....	4
2.2.	インポート .....	6
3.	データ管理 .....	14
3.1.	テスト結果の閲覧 .....	14
3.2.	情報の編集 .....	20
3.3.	データの検索 .....	22
4.	設定の変更 .....	23
4.1.	テスト結果の設定変更 .....	23
4.2.	長さ単位の選択 .....	24
4.3.	レポート形式の選択 .....	25
5.	オプション .....	27
5.1.	装置ソフトウェアのアップデート .....	27
5.2.	List-Based テスティング-階層 .....	30
5.3.	List- Based テスティング-ポイントツーポイント .....	31
6.	ローカリゼーション .....	32
6.1.	言語の選択 .....	32
6.2.	PC 上の装置の閲覧 .....	33

## **注意**

本マニュアルはワイヤーエキスパート専用ソフトウェア eXport をご使用するために作成されております。また、本マニュアル、全ての情報や企業のロゴマーク、商標、映像や画像などの著作権は全て Softing 社に帰属します。Softing 社は当該ソフトウェアのインストールもしくは使用によって発生したとされるいかなる損失に対して責任を負うことは出来ません。

ワイヤーエキスパートまたは eXport に関する詳細な情報をご希望の場合は、  
原田産業（株）情報通信チーム [sales-info@haradacorp.co.jp](mailto:sales-info@haradacorp.co.jp) までお問い合わせください。

### **eXport の動作環境（最低必要）：**

- Microsoft Windows® 8.x/10, 32-bit/64-bit
- Intel Core 2 Duo, 2GHz
- 200MB フリーディスクスペース(インストールに必要)
- 1GB(RAM)
- Microsoft .NET framework 4.0

### **システム要件(推奨)：**

- Microsoft Windows® 8.x/10, 32-bit/64-bit
- Intel Core i3, 2.4GHz 以上
- 4GB(RAM)

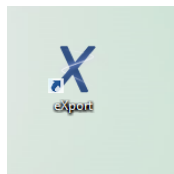
## 1. はじめに

作業開始前に Softing 社製ソフトウェア eXport を PC に予めインストールされていることをご確認ください。eXport の入手方法・インストール手順の詳細については、インストールマニュアルをご参照ください。eXport は、Softing 社のワイヤーエキスパート WX シリーズと円滑に作業できるようにプログラムされたソフトウェアです。そして、ワイヤーエキスパート本体が標準 OTDR \* .SOR ファイルで入手した試験結果から試験レポートを作成するように設計されています。また、一般的に使用される CSV, PDF 形式でデータを出力することが可能です。本ソフトウェアは、多くの品質・機能テストを繰り返し、最新版が常に最新の通信産業規格と傾向や条件を確実に満たすようにしております。

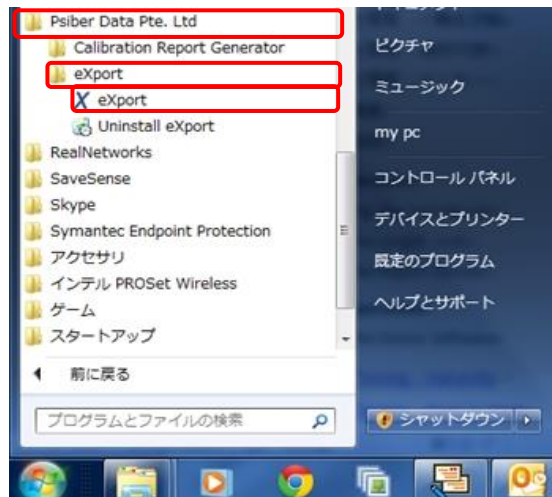
このマニュアルは、eXport ソフトウェアの使用方法を記述しております。ワイヤーエキスパート本体については、測定器本体の取扱説明書をご参照ください。

### 1.1. プログラムの実行

- (1) デスクトップ上のショートカットアイコン“eXport”をダブルクリックするか、スタートメニュー → Psiber Data Pte. Ltd → eXport に進み、eXport アイコンをクリックしてプログラムをスタートさせます。



ショートカットアイコン



x

- (2) プログラムが開始し、バージョン情報が表示されます。




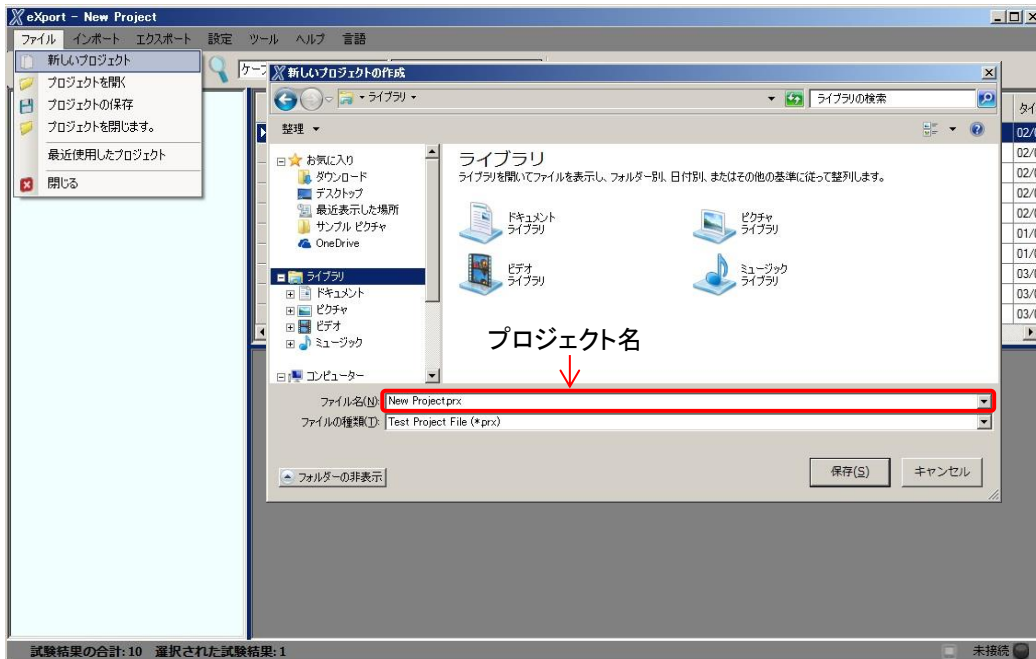
ソフトウェアバージョン

## 2. プロジェクト管理

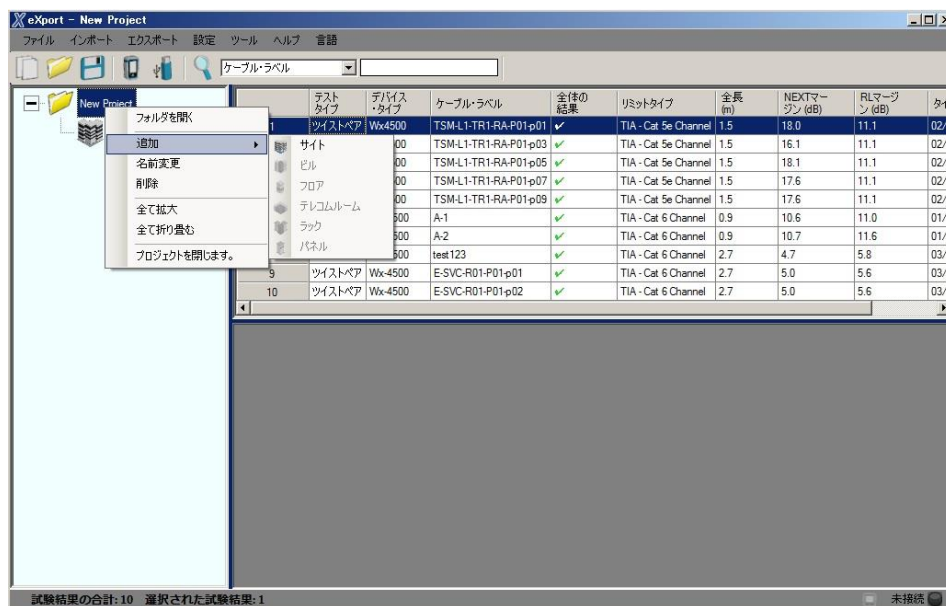
### 2.1. ファイル管理

#### 2.1.1. 新規プロジェクトの作成

- (1) 新規プロジェクトを作成するため、ファイル → 新しいプロジェクトに進みます。もしくは、 “新しいプロジェクト”アイコンをクリックします。




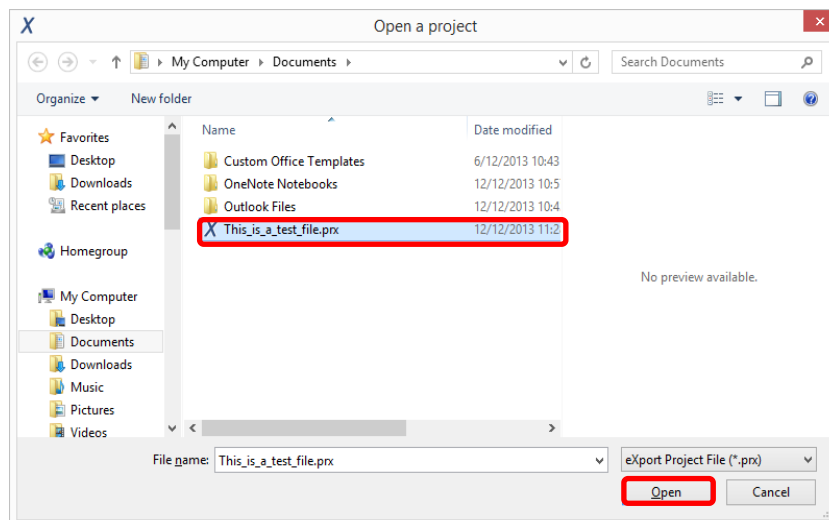
- (2) 作成した新しいプロジェクトを右クリックしていきます。



- フォルダを開く: 保存されたプロジェクトファイルを開く
- 追加 (サブアイテムを階層の順番に加えていく)
  - サイト: 新しいサイトをプロジェクトに追加
  - ビル: 選択したサイトに新しいビルのサブアイテムを追加
  - フロア: 選択したビルに新しいフロアのサブアイテムを追加
  - テレコムルーム: 選択したフロアに新しいルームのサブアイテムを追加
  - ラック: 選択したルームに新しいラックのサブアイテムを追加
  - パネル: 選択したラックに新しいパネルのサブアイテムを追加
- 名前の変更: 選択したアイテムの名前を変更します。
- 削除: 選択したアイテムを削除します。
- 全データの拡張もしくは縮小: プロジェクトのアイテム・サブアイテムを拡張もしくは縮小する
- プロジェクトを閉じる: 選択したプロジェクトを閉じる

## 2.1.2. 既存プロジェクトを開く

- (1) ファイルから開き、もしくは  “オープン” アイコンをクリックして、既存プロジェクトを開きます。プロジェクトファイル (\*.prx) を指定し、‘Open’を押して先に進みます。



## 2.2. インポート

### 2.2.1. 装置から試験結果

- (1) USBケーブルでワイヤーエキスパートがPCに接続されていることをご確認ください。




- (2) Microsoft Windows Mobile デバイスセンタをインストールしてください。  
'Accept' をクリックし、必要なドライバをインストールします。



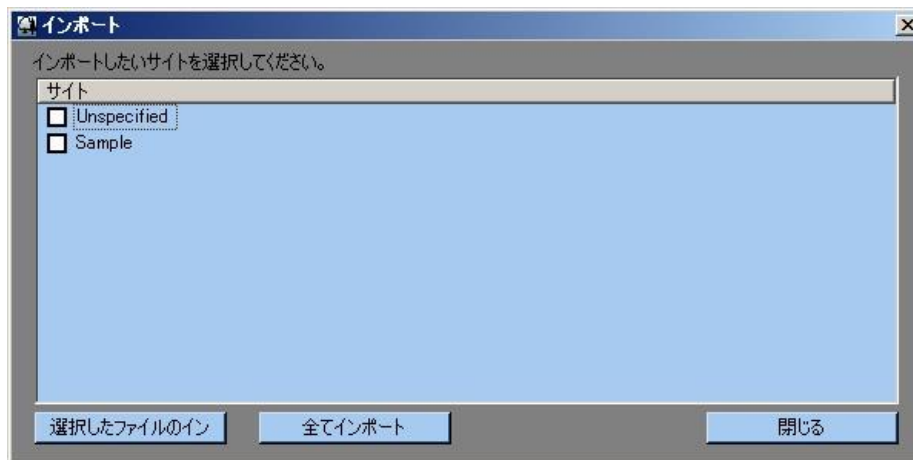
- (3) PCにデバイスを繋ぐとステータスバーが“Connected(接続)”を表示します。



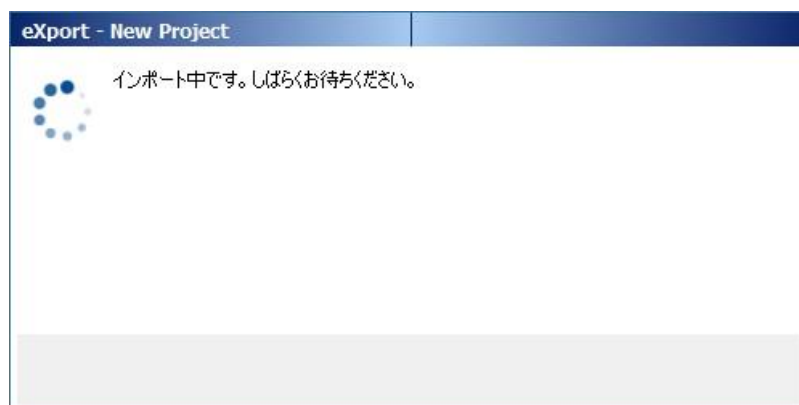
- (4) インポート → デバイスを選択するか、または  “デバイス” アイコンをクリックします。



- (5) インポートしたいテスト結果(サイト)を選択し、'選択したファイルのインポート'を押します。'全てインポート'を押すと、すべてのテスト結果がインポートされます。




- (6) 保存結果の数量によって、インポートする時間がかかります。



- (7) インポート中、ステータスバーが“移行中”の表示を出します。

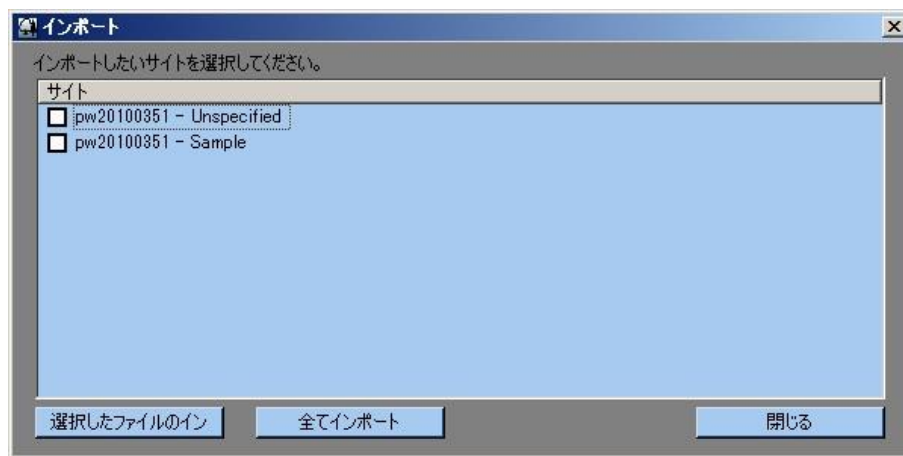


## 2.2.2. USB フラッシュドライブからテスト結果

- (1) インポート → USB ドライブを選択するか、または  “USB フラッシュドライブ” アイコンをクリックしてください。
- (2) テスト結果をインポートしたい USB を選択します。“インポート” をクリックしてください。



- (3) インポートするご希望サイトを選択するし “選択したファイルのインポート” をクリックするか、全サイトをインポートする “全てインポート” をクリックしてください。



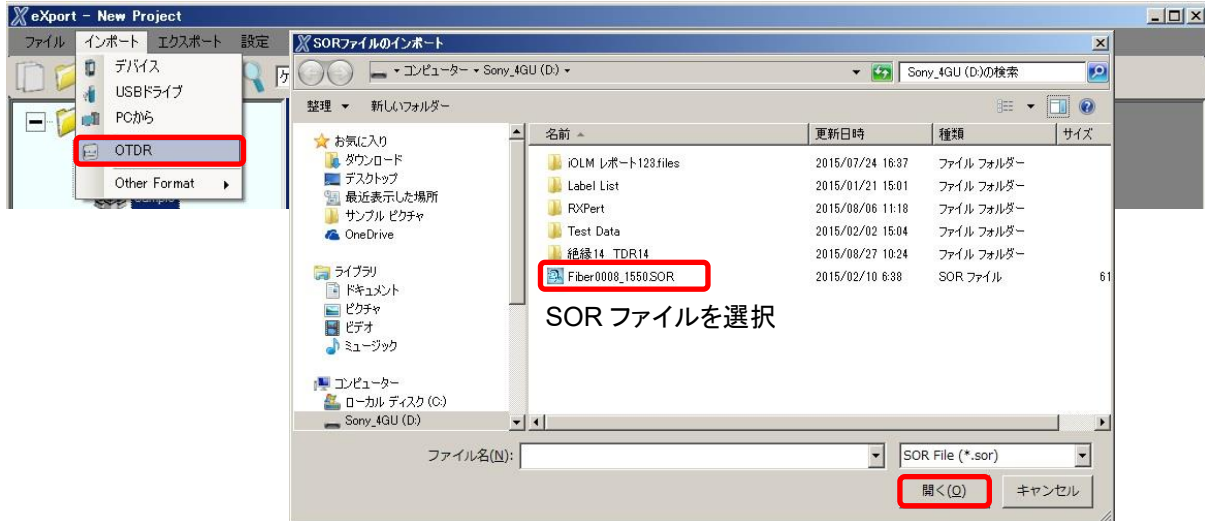
- (4) ステータスバーがインポート中の移行状況を表示します。



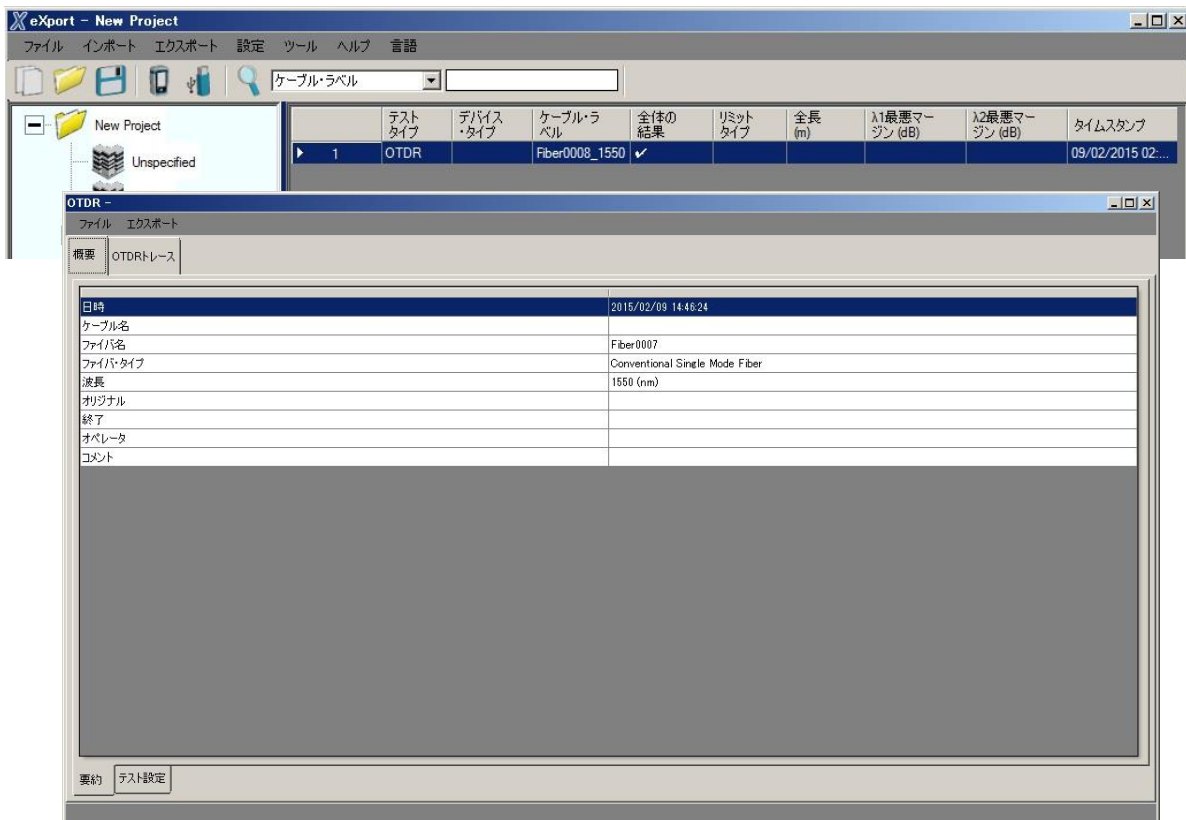
- (5) テスト結果が以前のファイル構造からインポートされた場合は、eXport は、自動的にデータベースをアップグレードします。

### 2.2.3. SOR ファイルから OTDR 試験結果

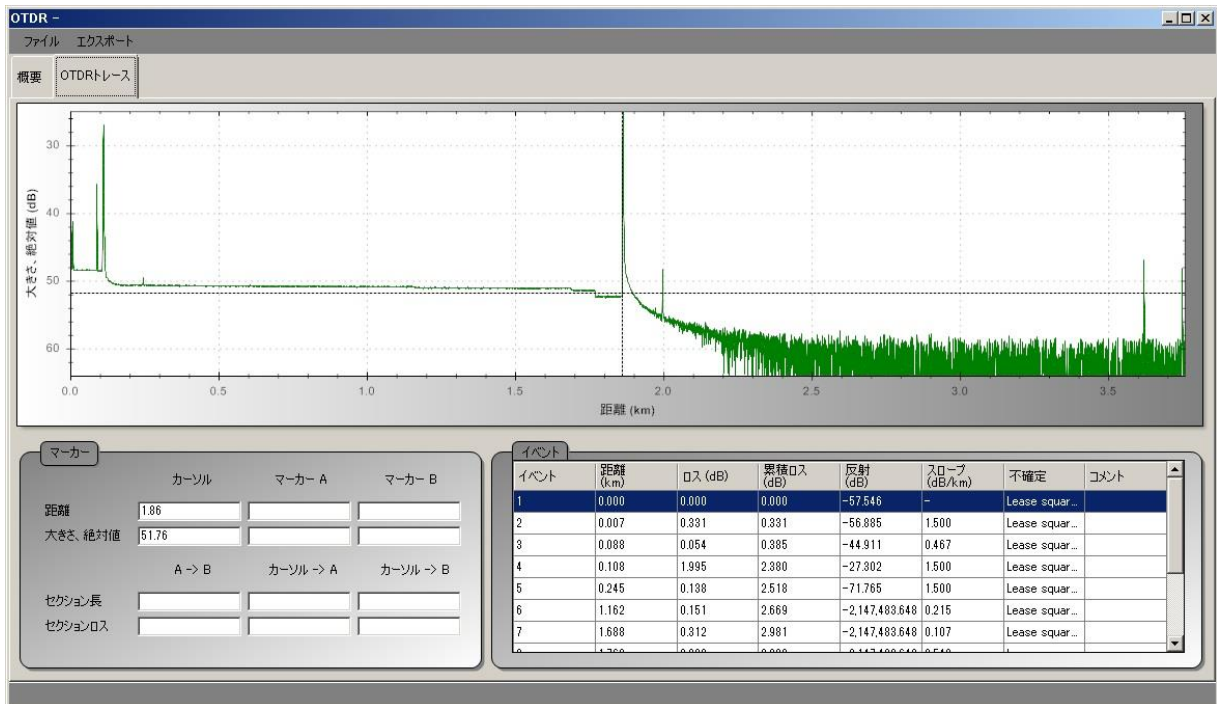
- (1) インポート → OTDR を選択後、\*.SOR files を選択して“開く”をクリックします。選択された SOR ファイルがインポートされます。



- (2) テスト結果をダブルクリックし、テスト結果の詳細を閲覧します。

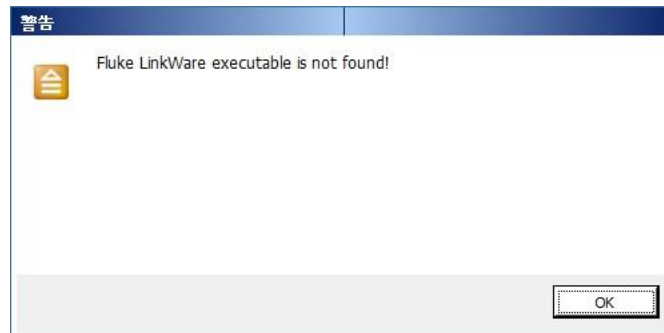


(3) マウスのカーソルを“OTDR トレース”の詳細ビューのチャートに動かし、絶対値の結果に対する距離を閲覧します。

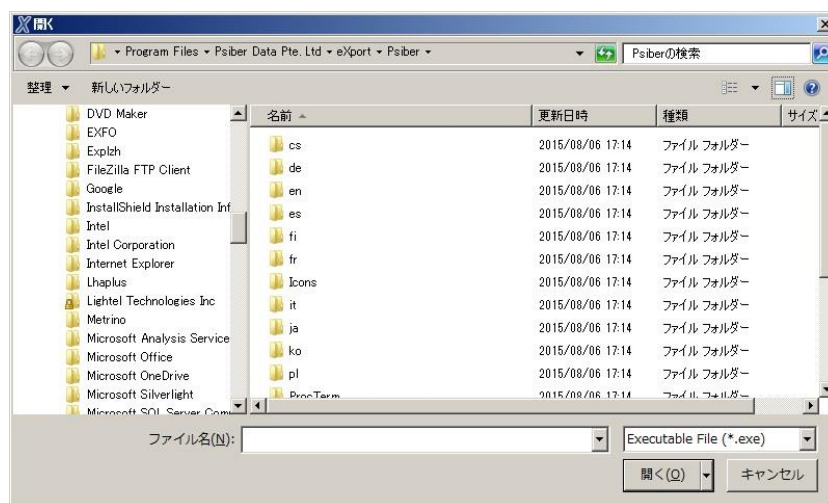


## 2.2.4. Fluke Linkware Test Results from FLW files

※ データをインポートする前に PC に Linkware がインストールされているか確認してください。インストールされていない場合は、下記のメッセージが表示されます。



- (1) インポート → Other Format → Fluke LinkWare (.flw)にいき、\*.flw ファイルを選択します。
- (2) LinkWare を初期ディレクトリにインストールした場合は、eXport が LinkWare アプリケーションを検出できます。しかし、他のディレクトリにインストールした場合は、インストールしたディレクトリの LinkWare.exe を選択して“開く”をクリックしてください。



- (3) \*.FLW ファイルを選択して“開く”をクリックします。インポートが開始されます。
- (4) テスト結果をダブルクリックし、テスト結果の詳細を閲覧します。

Test Type	Device Type	Cable Label	Overall Result	Limit Type	Overall Length (m)	NEXT Margin (dB)	RL Margin (dB)	11 Worst Margin (dB)
1	Fluke LinkWare	D1-03	✓	TIA Cat 6 Perm Link	29	3.1	5.6	0
2	Fluke LinkWare	D1-01	✓	TIA Cat 6 Perm Link	57	1.4	4.3	0
3	Fluke LinkWare	WWWWWWWWTTTTT10000000000	✓	TIA Cat 5e BL (1995)	60.4	11.1	5.7	0
4	Fluke LinkWare	A1-02	✓	TIA Cat 5e BL (1995)	52.3	11.2	7.5	0
5	Fluke LinkWare	FM1-A	✓	Cat 5E Chan	35.4	7.2	4	0
6	Fluke LinkWare	FM2-A	✓	Cat 5E Chan	65.5	5.4	2.4	0
7	Fluke LinkWare	PORT-001	✓	Cat 5E P-Link	24.4	10.3	3.2	0
8	Fluke LinkWare	PORT-002	✓	Cat 5E P-Link	30.2	16.4	7.8	0

## 2.2.5. テスト結果をエクスポート(レポート作成)

テスト結果は、PDF 形式もしくは CSV 形式でテスト結果を出力することができます。

- (1) メイン画面で出力したいテスト結果を選択します。複数のテスト結果を選択することも可能です。
- (2) PDF 形式でエクスポートする場合は、エクスポート → PDF を選択し、出力形式を選択してテスト結果をエクスポートします。

CSV 形式でエクスポートする場合は、エクスポート → CSV を選択し、出力形式を選択してテスト結果をエクスポートします。

※ 出力形式

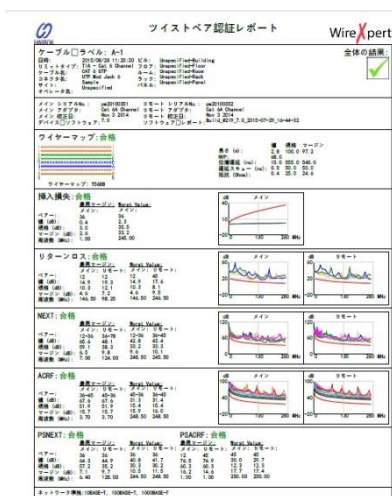
- 概要: Generates 基本情報のみリスト化された概要結果。一般的に全プロジェクトを表にしています。
- 詳細: 各ポイントでのテストパラメータ、プロット、テスト設定、デバイス情報で構成されたテスト結果を作成します。



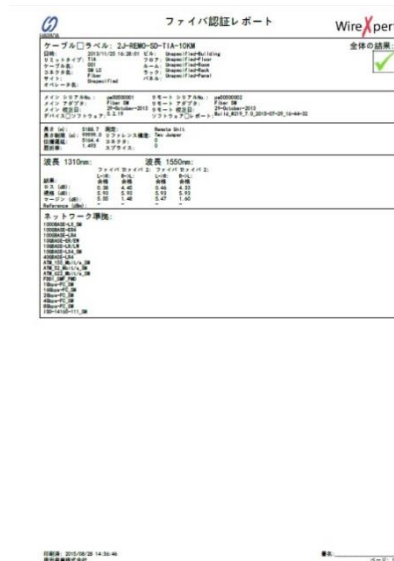
出力形式: 概要

ケーブルラベル	結果	長さ (m)	NEXTマージン (dB)	規格	日時
A-1	✓	4.4	13.4	TIA - Cat 5e Permanent Link	2014/09/11 11:17:31
A-2	✓	4.4	13.4	TIA - Cat 5e Permanent Link	2014/09/11 11:18:23
A-3	✓	3.8	4.2	TIA - Cat 6A Permanent Link	2014/09/18 10:43:31
A-1	✓	1.1	11.8	TIA - Cat 6A Channel	2014/11/19 13:10:17
A-1	✓	2.1	13.6	TIA - Cat 6A Channel	2014/12/09 13:00:28
A-2	✓	2.1	12.3	TIA - Cat 6A Channel	2014/12/10 13:11:38

出力形式: 詳細



一般的なメタルケーブル認証レポート(詳細)

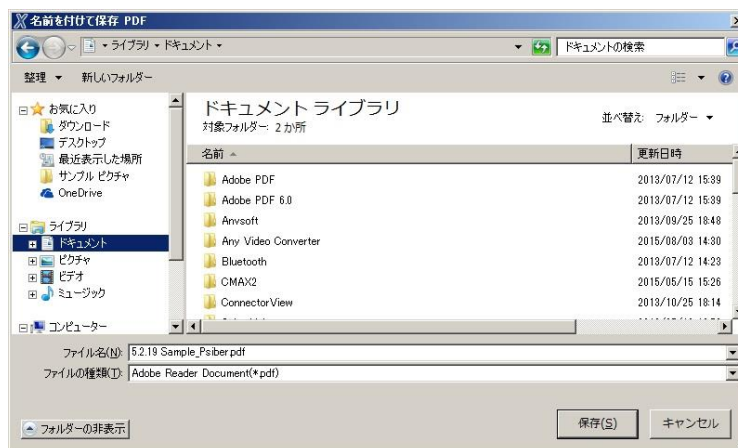


一般的なファイバ認証レポート(詳細)

- (3) “選択した結果”でご希望の結果のみを選択するか、“すべての結果” でロードされている全結果を選びます。‘OK’をクリックして次に進みます。



- (4) 名前を付けて保存します。



- ※ Lab オプションで保存フェイズオプションが可能な場合、フェイズ情報のためにプロットを作る際、エクスポートされた CSV ファイルが使えます。

### 3. データ管理

#### 3.1. テスト結果の閲覧

- (1) テスト結果をインポート後、要約したデータが表示されます。すべてのテスト結果を表示するため、プロジェクト名をクリックします。サイト名をクリックし、サイト内に保存されたテスト結果を表示します。'テストアダプタ'タブでは、テスト結果を入手するために使われたハードウェアの情報が表示されます。

	テストタイプ	デバイスタイプ	ケーブルラベル	全体の結果	リミットタイプ	全長 (m)	NEXTマージン (dB)	RLマージン (dB)	タイムスタンプ
▶ 1	ツイストペア	Wx-4500	A-1	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.8	6.5	4.6	28/08/2015 11:...
2	ツイストペア	Wx-4500	A-2	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.8	5.9	4.5	28/08/2015 11:...
3	ツイストペア	Wx-4500	A-3	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.8	6.4	4.5	28/08/2015 11:...
4	ツイストペア	Wx-4500	A-4	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.7	6.5	4.4	28/08/2015 11:...
5	ツイストペア	Wx-4500	A-5	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.7	6.5	4.4	28/08/2015 11:...
6	ツイストペア	Wx-4500	A-6	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.7	6.4	4.4	28/08/2015 11:...
7	ツイストペア	Wx-4500	A-7	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.7	6.3	4.5	28/08/2015 11:...
8	ツイストペア	Wx-4500	A-8	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.7	6.4	4.5	28/08/2015 11:...
9	ツイストペア	Wx-4500	A-9	✓	TIA - Cat 6 Channel	2.7	6.4	4.5	28/08/2015 11:...

概要		全体の結果	
メインシリアルNo.	pw20100351	測定	Value/Margin
リモートシリアルNo.	pw20100352	長さ (m)	2.8
ケーブルメーカー	Generic UTP	遅延 (ns)	15.0
ケーブル名	CAT 6 UTP	NVP (%)	68
ケーブルタイプ	Unshielded	抵抗 (Ohms)	0.4
コネクタメーカー	Generic Unshielded	挿入損失 (dB)	2.3
コネクタ名	UTP Mod Jack 6	リターンロス (dB)	4.6
コネクタタイプ	Unshielded	NEXT (dB)	6.5
規格	TIA - Cat 6 Channel	PSNEXT (dB)	7.1
		ACRF (dB)	15.7
		PSACRF (dB)	14.6

用例



Pass



Marginal Pass



Fail

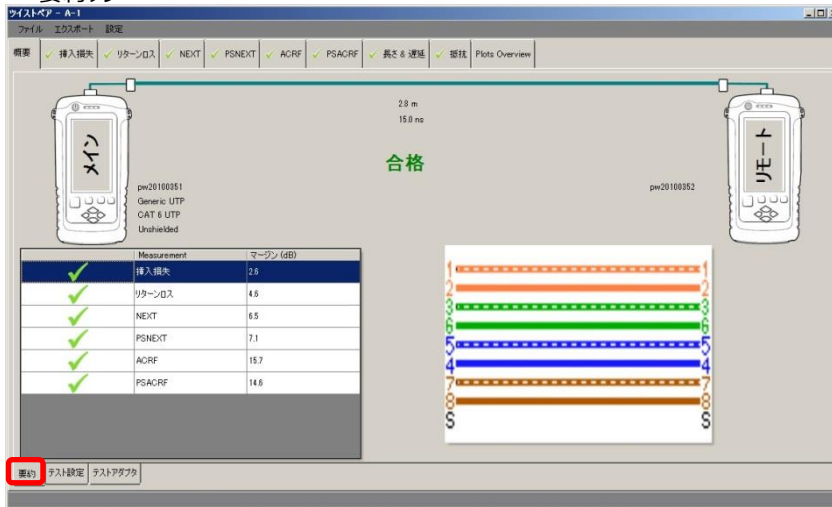


Marginal Fail

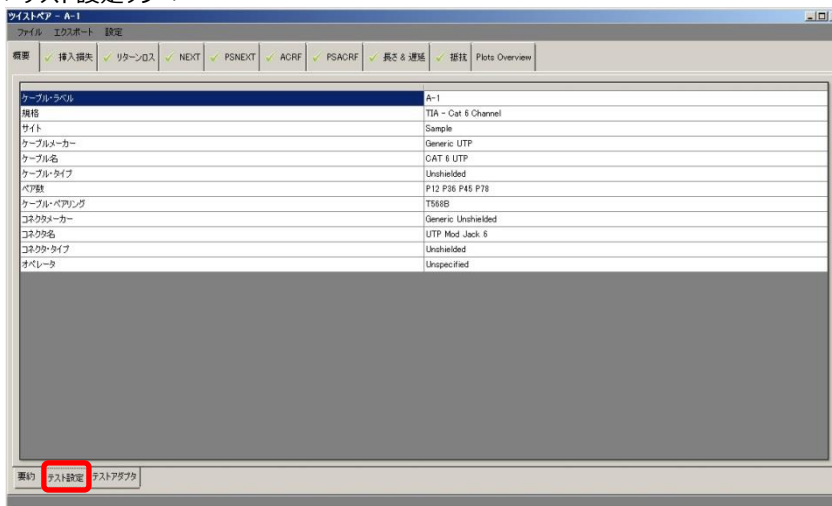


- (2) テスト結果の詳細を知りたい場合は、VIEW をダブルクリックしてください。'要約'タブでは、選択したテスト結果の要約が表示されます。'テスト設定'タブでは、選択したテスト結果で使用されている測定器の構成が表示されます。

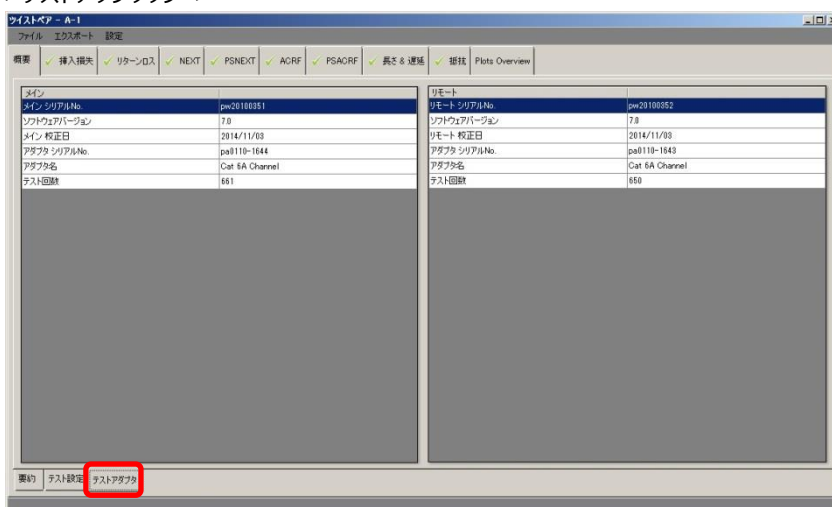
### < 要約タブ >



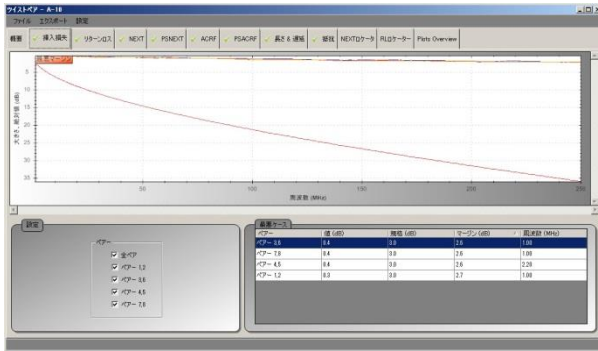
### < テスト設定タブ >



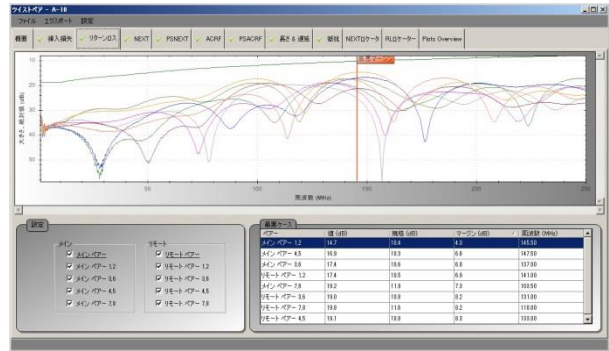
### < テストアダプタタブ >



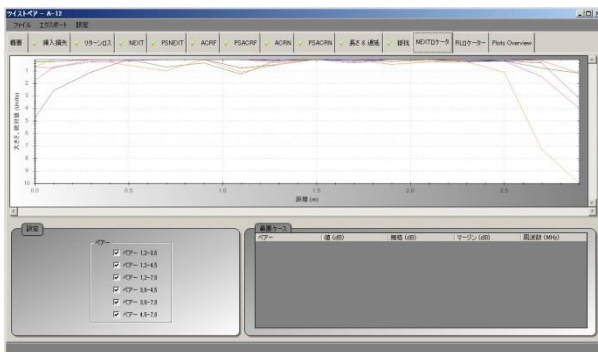
(3) 各項目のタブをクリックすると、プロット、最悪マージンや他の詳細情報が表示されます。プロット上でマウスのスクロールを使うと、テスト結果のズームイン・アウトが出来、右クリックでプロットのオプション情報が閲覧できます。



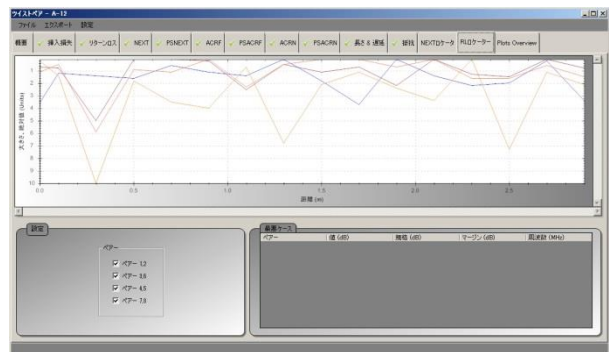
挿入損失



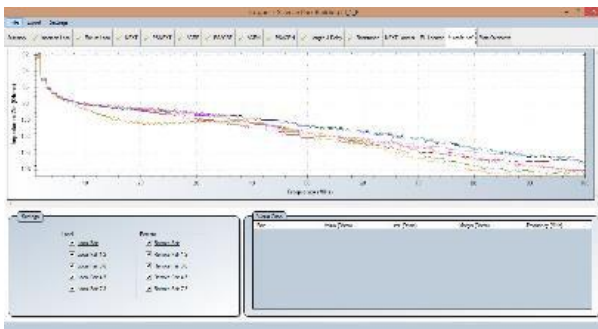
リターンロス



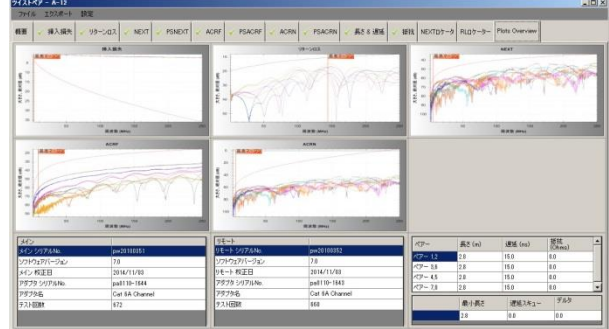
NEXT ロケータ



RL ロケータ



インピーダンス

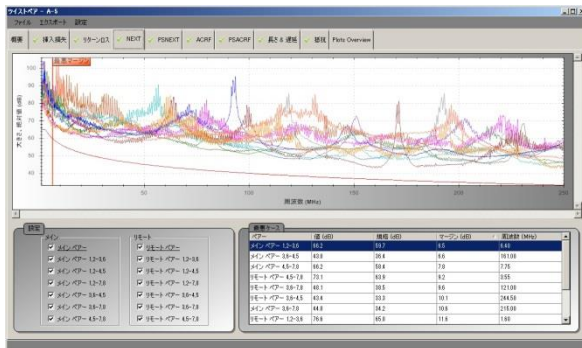


Plots Overview

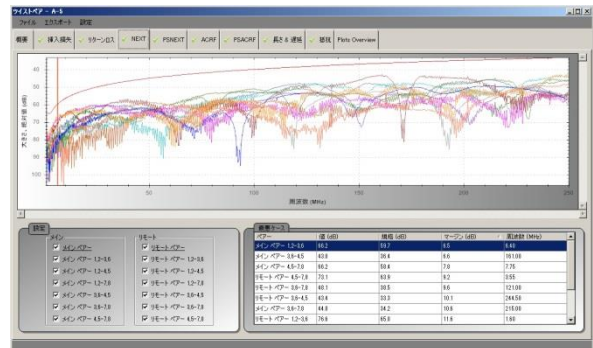


### 3.1.1. Y 軸の反転

(1) 設定 → Y 軸方向 → 反転をクリックします。



初期設定チャート

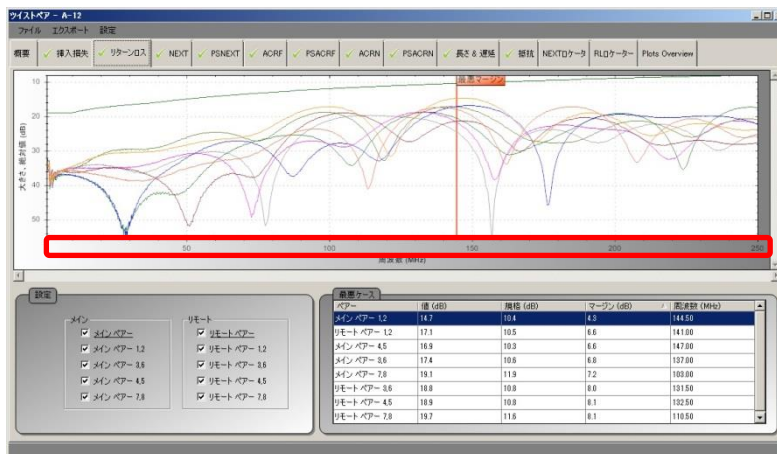


反転チャート

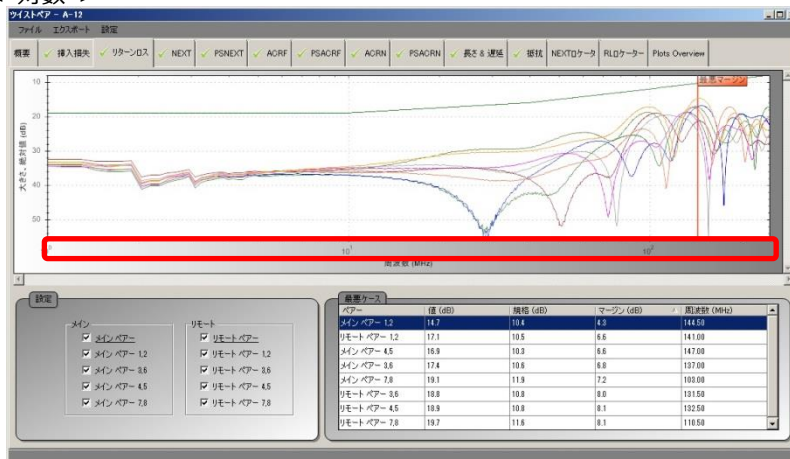
### 3.1.2. リニア & 対数

(1) 設定 → X 軸方向 → リニア or 対数をクリックしてください。(初期値: リニア)

< リニア >



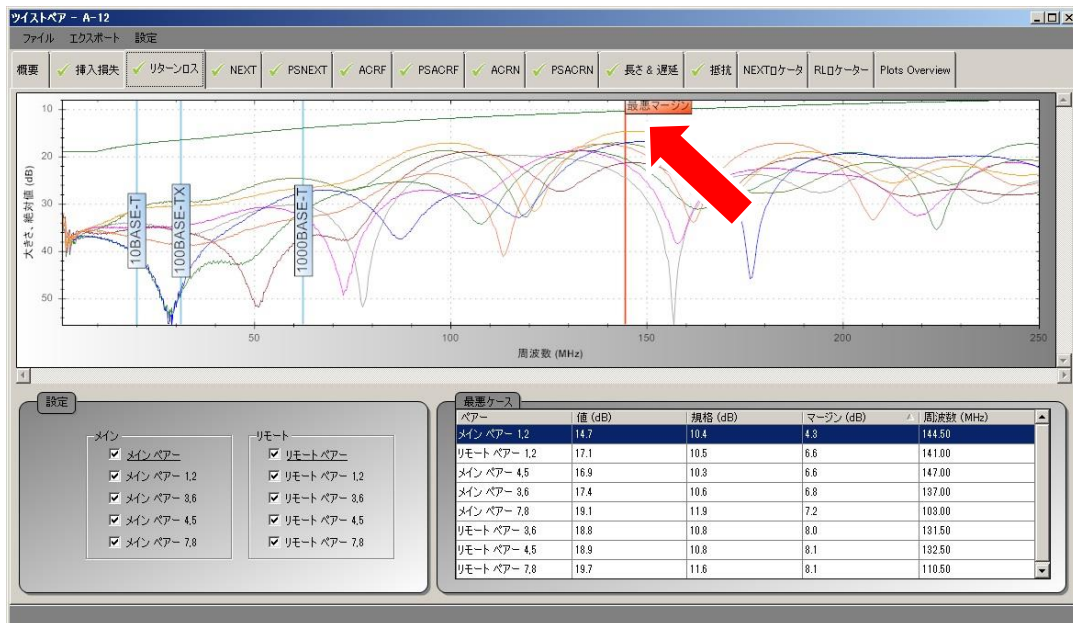
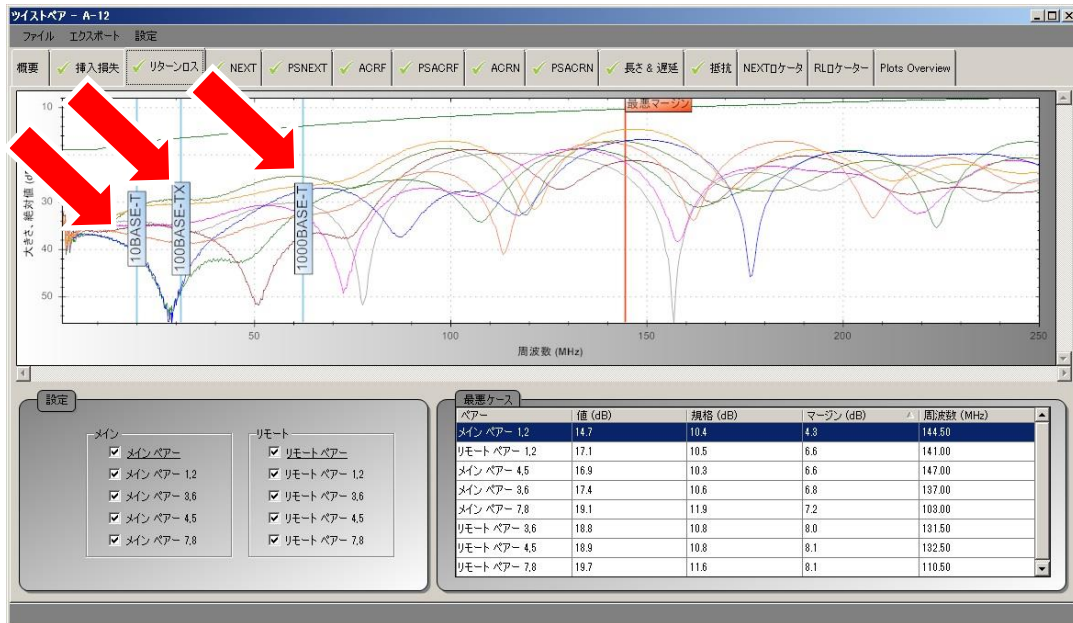
< 対数 >



### 3.1.3. マーカー

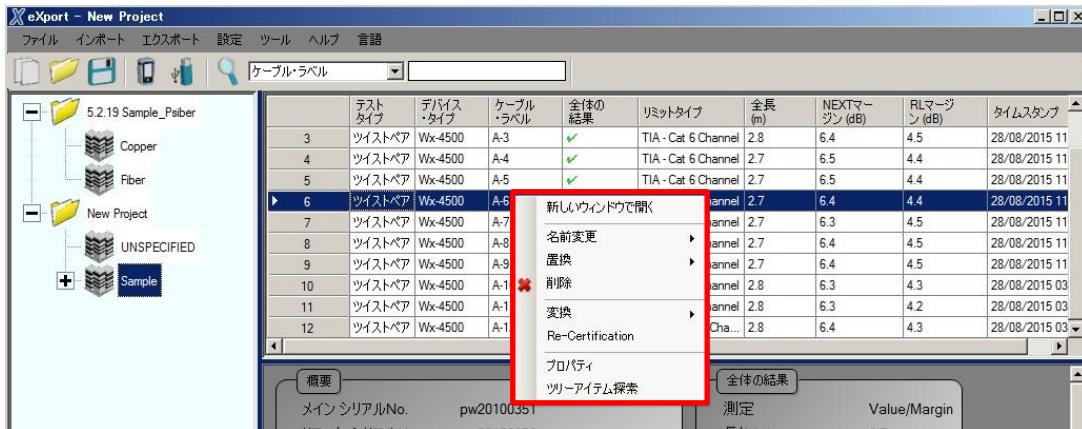
(1) 設定 → マーカー → イーサネット規格をクリックします。マーカーが追加され、各種イーサネット規格の周波数が表示されます。

また、設定 → マーカー → 最悪マージンでマージンが少ない箇所にマーカーが表示されます。(初期値: 最悪マージン表示有効)



## 3.2. 情報の編集

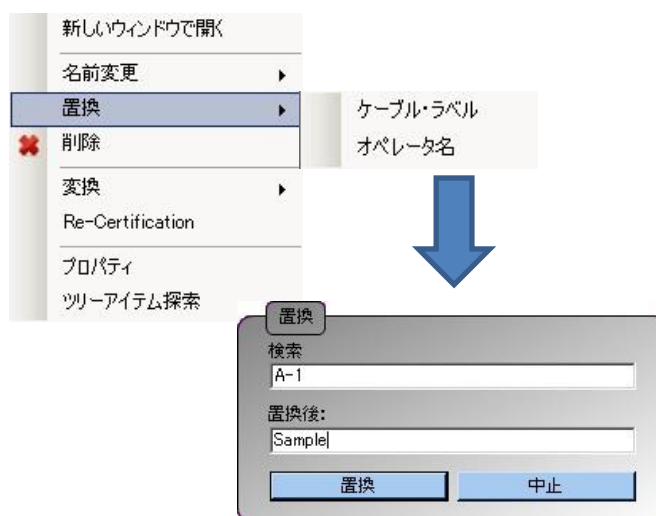
(1) テスト結果の右側にある選択スクリーンで右クリックします。



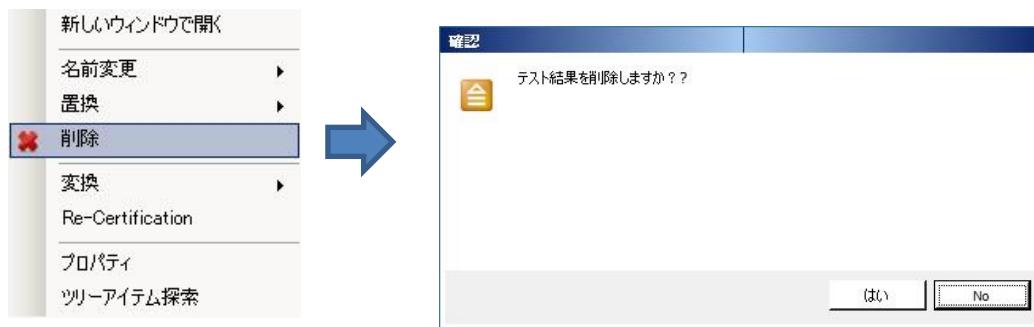
- (2) 名前変更 → ケーブル・ラベルで、選択したケーブル・ラベルを変更します。  
 名前変更 → オペレータ名で、選択したオペレータ名を変更します。  
 名前変更したケーブル・ラベル／オペレータ名は詳細結果のテスト設定タブでも反映されています。



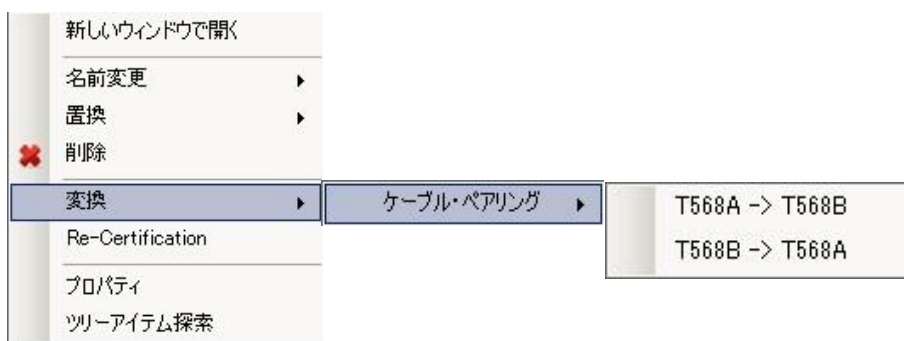
- (3) 置換 → ケーブル・ラベルで、選択結果の置き換えるラベルを検索します。  
 置換 → オペレータ名で、選択結果の置き換える名前を検索します。  
 置換したケーブル・ラベル／オペレータ名は詳細結果の'テスト設定'にも反映されます。



(4) テスト結果を削除する場合、'Yes'を押してください。



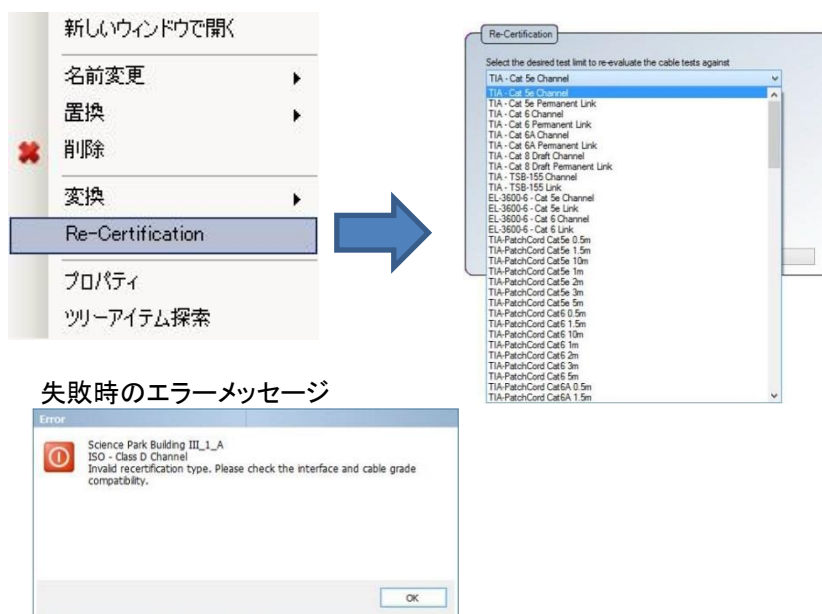
(5) 変換 → ケーブル・ペアリングを押し、T568A から T568B への変更、もしくは T568B から T568A への変更ができます。初期設定は T568B ケーブル・ペアリングです。



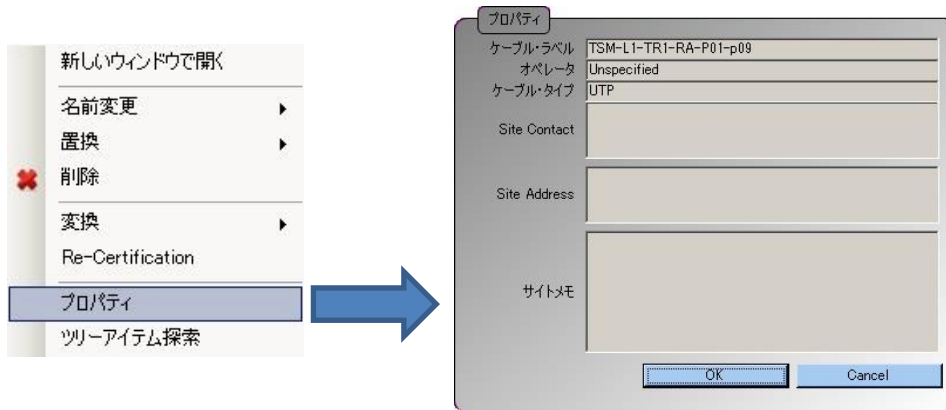
(6) Re-Certification をクリックします。選択したテスト結果に対して再度、他のテスト規格で認証試験を適用することができます。但し、テスト構成が合わない場合は、失敗します。(エラーメッセージが表示されます。)

<注意>

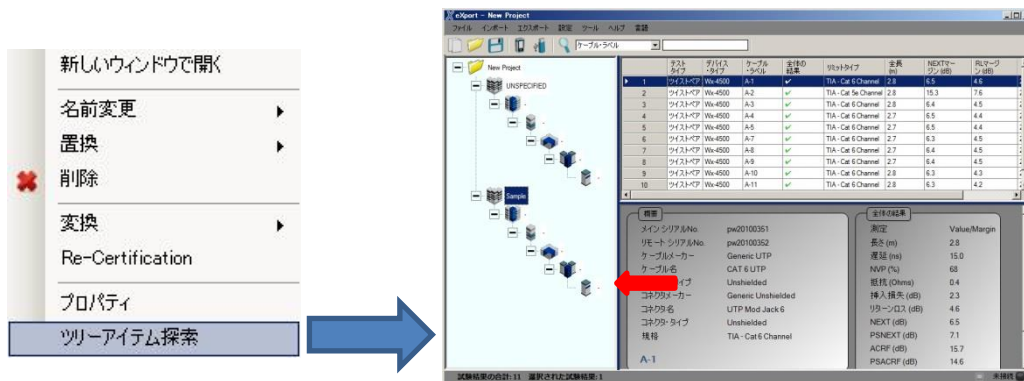
実行する前に\*.PRX ファイルのバックアップを実行してください。変更したケーブル認証結果で上書きされてしまいます。



(7) プロパティを開き、選択結果にある編集可能な情報を閲覧します。

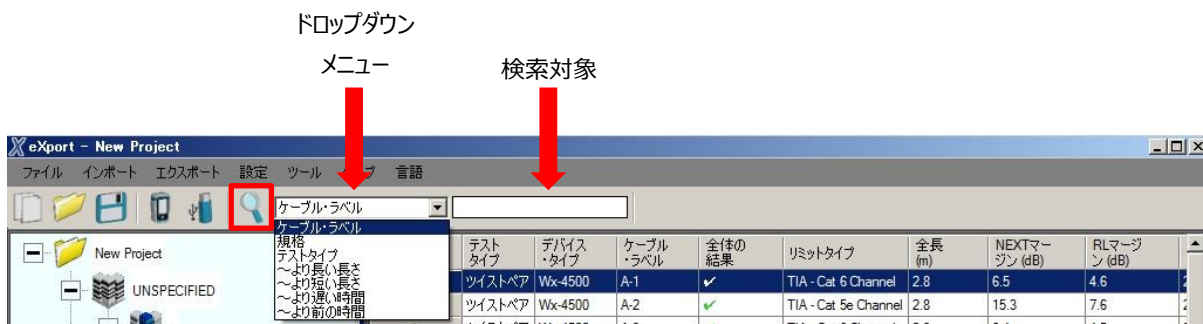


(8) 指定するツリーアイテムにいき、選択したケーブルラベルがプロジェクト階層ツリーにある場所を探します。



### 3.3. データの検索

(1) ドロップダウンメニューから検索の種類を選び、検索対象から検索する数値を入力するか、追加検索オプションから検索します。





## 4. 設定の変更

### 4.1. テスト結果の設定変更

- (1) 設定 → 会社詳細にいき、テスト結果に貴社ロゴと貴社名を記載します。
- (2) 会社名を入力し、ブラウザの空欄をクリックしてロゴイメージを選択します。OK をクリックして保存します。



- (3) エクスポートされたテスト結果の左上に、貴社名とロゴが表示されます。

< 概要レポート >

 原田産業(株)		サマリーレポート				
ケーブルラベル	結果	長さ (m)	NEXTマージン (dB)	規格	日時	
<input type="checkbox"/> A-1	<input checked="" type="checkbox"/>	2.8	6.5	TIA - Cat 6 Channel	2015/08/28 11:20:20	

< 詳細レポート >

 ツイストペア認証レポート		WireXpert
ケーブルラベル: A-1 日時: 2015/08/28 11:20:20 リミットタイプ: TIA - Cat 6 Channel	ビル: Unspecified-Building フロア: Unspecified-Floor	全体の結果: 

印刷済: 2015/08/31 14:50:21

原田産業(株)

署名: \_\_\_\_\_ ページ: 1

## 4.2. 長さ単位の選択

(1) 設定 → 長さ単位にいき、テスト結果の長さ表示で、メートルにするかフィートにするかを選択します。

< メートル >



全体の結果	
測定	Value/Margin
長さ (m)	2.8
遅延 (ns)	15.0
NVP (%)	68
抵抗 (Ohms)	0.4
挿入損失 (dB)	2.3
リターンロス (dB)	4.6
NEXT (dB)	6.5
PSNEXT (dB)	7.1
ACRF (dB)	15.7
PSACRF (dB)	14.6
ACRN (dB)	-
PSACRN (dB)	-

< フィート >



全体の結果	
測定	Value/Margin
長さ (ft)	9.2
遅延 (ns)	15.0
NVP (%)	68
抵抗 (Ohms)	0.4
挿入損失 (dB)	2.3
リターンロス (dB)	4.6
NEXT (dB)	6.5
PSNEXT (dB)	7.1
ACRF (dB)	15.7
PSACRF (dB)	14.6
ACRN (dB)	-
PSACRN (dB)	-

## 4.3. レポート形式の選択

- (1) 設定 → レポート形式を選択し、レポートの形式を選びます。
- (2) 校正日をチェック（初期設定）するとワイヤーエキスパート WX シリーズの最新校正日時がレポートに表示されます。



< 校正情報あり >

### ツイストペア認証レポート




ケーブルラベル: A-1 日時: 2015/08/28 11:20:20 リミットタイプ: TIA - Cat 6 Channel ケーブル名: CAT 6 UTP コネクタ名: UTP Mod Jack 6 サイト: Sample オペレータ名: Unspecified	ビル: Unspecified-Building フロア: Unspecified-Floor ルーム: Unspecified-Room ラック: Unspecified-Rack パネル: Unspecified-Panel	全体の結果: 
メイン シリアルNo.: pw20100351 メイン アダプタ: Cat 6A Channel <b>メイン 校正日: Nov 3 2014</b>	リモート シリアルNo.: pw20100352 リモート アダプタ: Cat 6A Channel <b>リモート 校正日: Nov 3 2014</b>	
デバイスソフトウェア: 7.0	ソフトウェアレポート: Build_#219_7.0_2015-07-29_16-44-32	

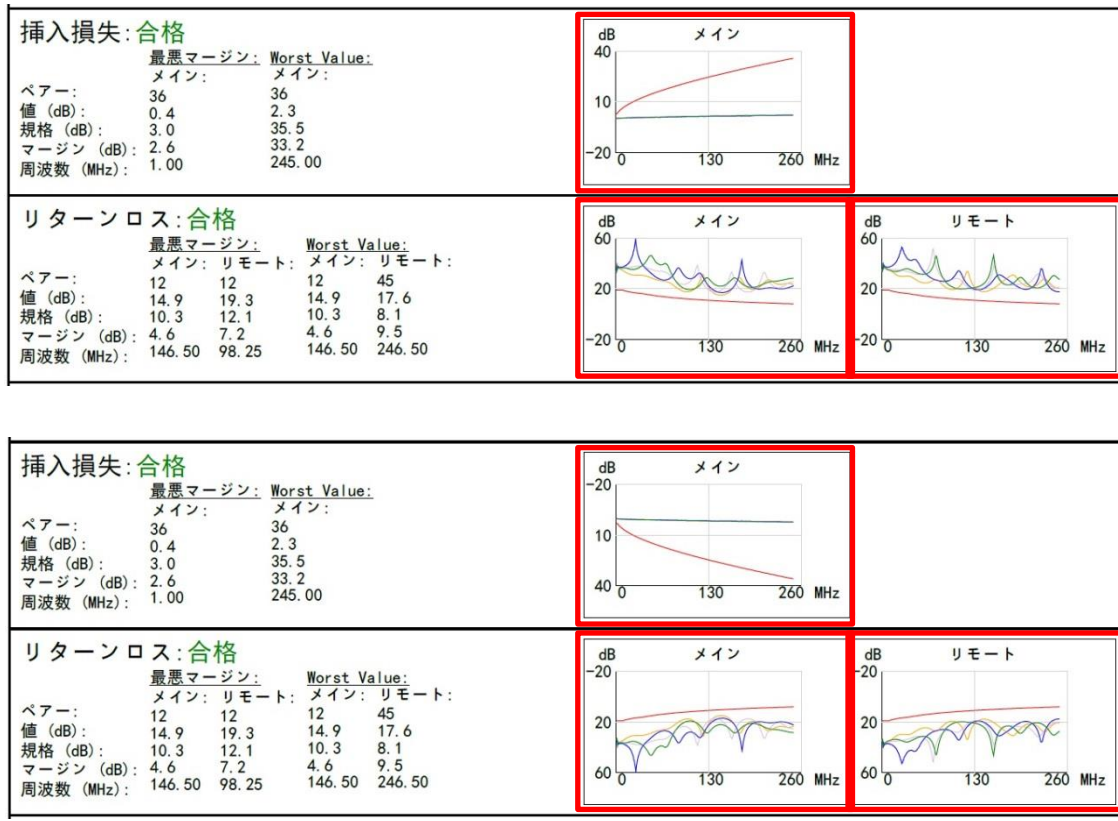
< 校正情報なし >

### ツイストペア認証レポート



ケーブルラベル: A-1 日時: 2015/08/28 11:20:20 リミットタイプ: TIA - Cat 6 Channel ケーブル名: CAT 6 UTP コネクタ名: UTP Mod Jack 6 サイト: Sample オペレータ名: Unspecified	ビル: Unspecified-Building フロア: Unspecified-Floor ルーム: Unspecified-Room ラック: Unspecified-Rack パネル: Unspecified-Panel	全体の結果: 
メイン シリアルNo.: pw20100351 メイン アダプタ: Cat 6A Channel デバイスソフトウェア: 7.0	リモート シリアルNo.: pw20100352 リモート アダプタ: Cat 6A Channel ソフトウェアレポート: Build_#219_7.0_2015-07-29_16-44-32	

(3) Y-Axis Inverted (Y 軸の反転)をチェックすると全テスト結果にて、反転した Y 軸でのチャートが作成されます。

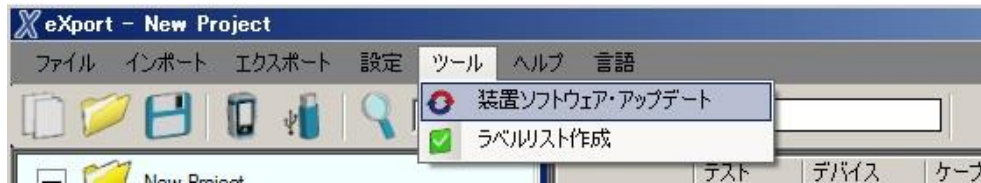


(4) Plots(プロット)からPDFレポートを作成する際に、解像度を高く(High Resolution)するか、低くしてファイルサイズを圧縮するか(Low Resolution)を選びます。

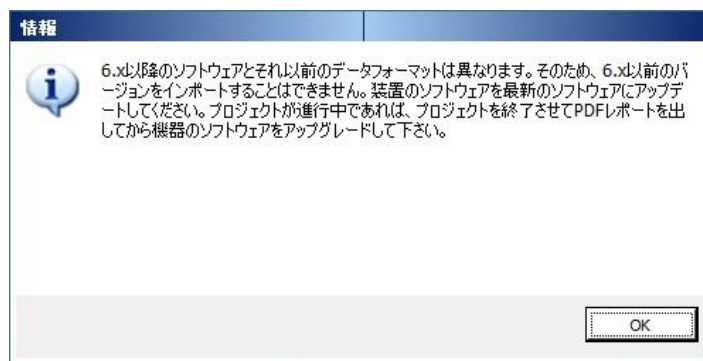
## 5. オプション

### 5.1. 装置ソフトウェアのアップデート

- (1) ツールから「装置ソフトウェア・アップデート」を選択してください。



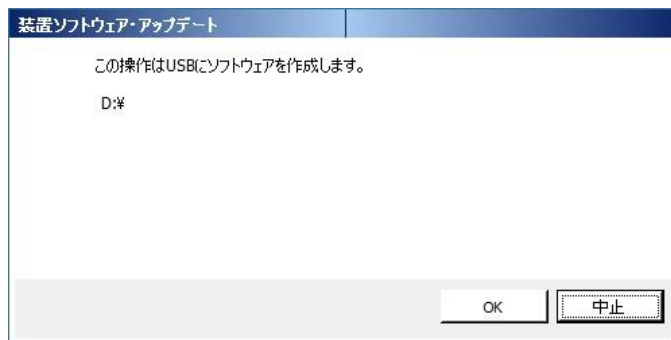
- (2) アップデートを開始する前に、USB フラッシュドライブが作業される PC 等にきちんと接続されているかをご確認ください。
- (3) 警告メッセージが表示されます。ご確認後、'OK'をクリックしてください。



- (4) USB フラッシュドライブを選択して、'エクスポート'をクリックしてください。



(5) アップデートを進めるため、'OK'をクリックします。

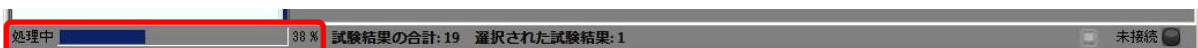


(6) エクスポート中の画面表示です。また、画面下部のステータスバーで進行状況が表示されます。

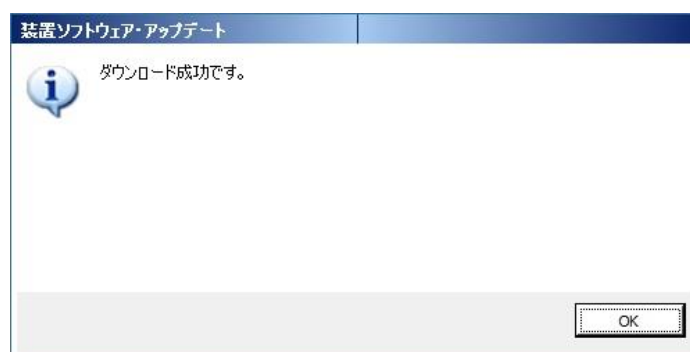
< 画面表示 >



< ステータスバー表示 >



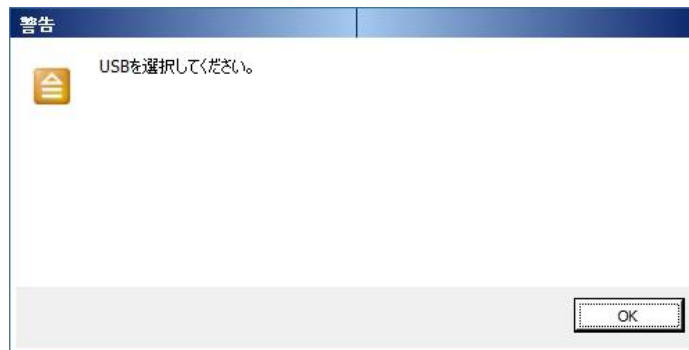
(7) エクスポート作業が完了すると下記のように表示されます。'OK'をクリックし、先に進みます。



(8) ファイルは USB フラッシュディスクのフォルダにある“RXPert” フォルダに保存されます。



(9) USB フラッシュドライブがない場合、すぐに接続してください。



## 5.2. List-Based テスティング-階層



※ この機能での言語は英語のみとなります。ご注意ください。

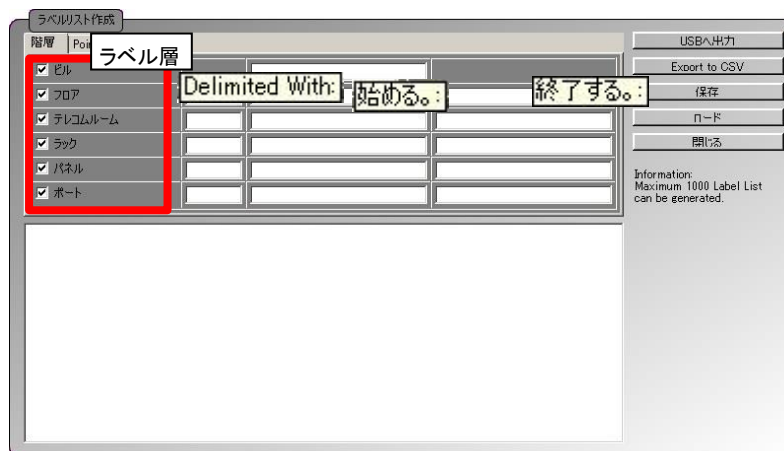
※ List-Base テスティングの作成手順の詳細は、付録 C を参照してください。

ツール → ラベルリスト作成を選択すると List-Based テスティング機能を使用出来ます。

ラベルリスト作成機能では、カスタマイズ可能な階層を作成できます。ケーブル認証作業前に、各試験後にラベルを作成する手間を省けます。実際は、ビルの名前>フロア>テレコムルーム>ラック>パネル>ポートの順序です。事前定義したラベルを装置にインポートし、不規則に作業する場合に二重試験の防止になります。

ラベルの段や層はラベルの階層を意味します。

- Delimited with: 各ラベルの層間でのテキスト分類。不要ならブランク。英数字とアスキー文字を使用。
- 始まる。: 階層の最初のラベル。英数字のみ使用。
- 終了する。: 階層の最後のラベル。入力量によってラベル数が増える。英数字のみ使用。



(例)

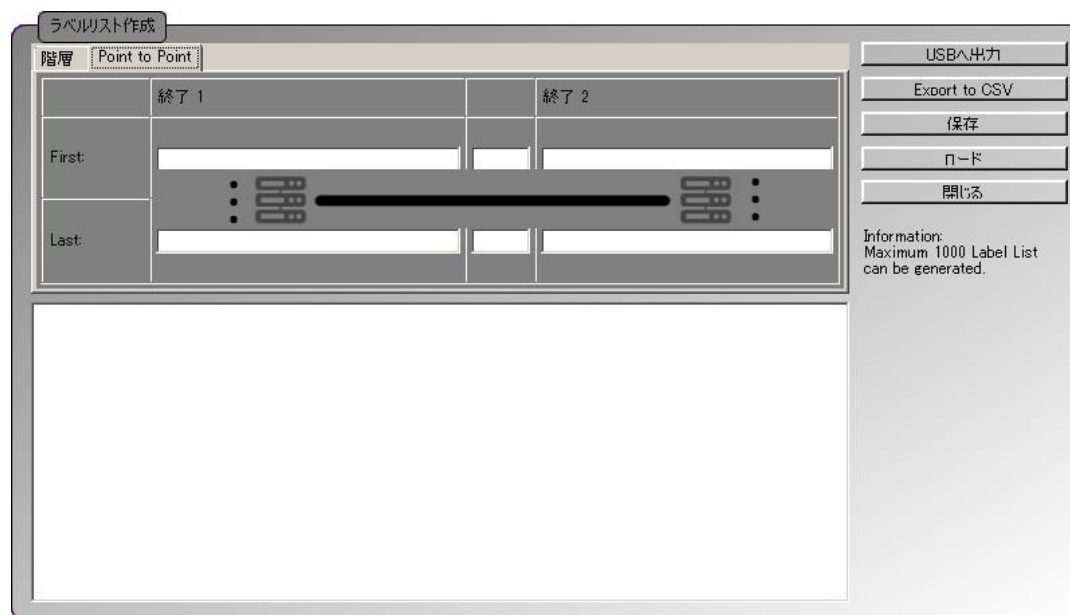
Start With	End With	作成ラベル
ビル名-フロア_01	ビル名-フロア_10	10 ラベル
ビル名-L01-ルーム A	ビル名-L01-ルーム F	6 ラベル 英数字の最終ラベルも増加
ビル名-#01-ルーム A1	ビル名-#02-ルーム B5	20 ラベル ビル名#01-ルーム A1~A5 ビル名#01-ルーム B1~B5 ビル名#02-ルーム A1~A5 ビル名#02-ルーム B1~B5



### 5.3. List- Based テスティング-ポイントツーポイント

※ この機能での言語は英語のみとなります。ご注意ください。

ポイントツーポイントラベル作成機能では、A 点から B 点のような直線的な接続で使用するラベルを作成できます。例として、パネル 2 点間でのバックボーンあるいは接続ターミネーションです。



## 6. ローカライゼーション

### 6.1. 言語の選択

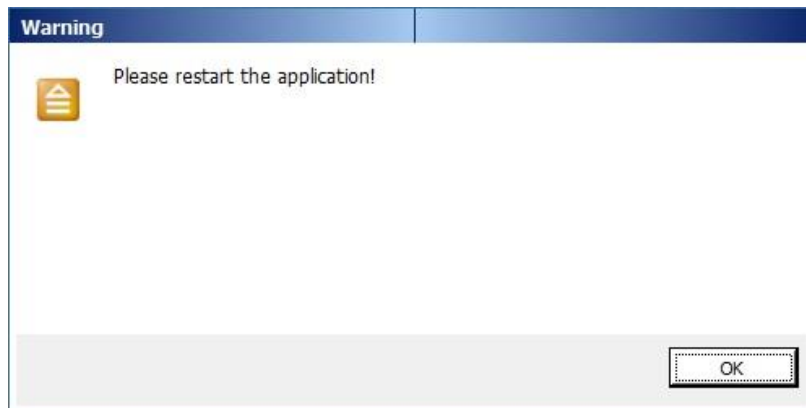
次の言語が使用可能です。日本語、英語（初期設定）、独語、フィンランド語、中国語（共通）、仏語他

(1) 言語から、ご希望のものを選択してください。




(2) eXport をリスタートするため、OK をクリックしてください。

< 例：英語から日本語に変更時 >



## 6.2. PC 上の装置の閲覧

- (1) ワイヤエキスパートWXシリーズをPCに接続後、ステータスバーに表示されている **Connected** の横にあるデバイスアイコン  をクリックしてください。



- (2) 装置情報を選択し、装置の製造番号・ソフトウェアのバージョン情報、校正日時を閲覧します。'リモートディスプレイ'を選択し、PC を通じてローカルユニットに遠隔アクセスします。このオプションを使って、スクリーンキャプチャ（イメージ）、動画保存、スクリーン拡大（ズーム）等の機能が使用できます。



 【製造元】  
Softing Singapore Pte. Ltd.

 【販売元】  
原田産業株式会社 AIF チーム  
Tel : 03-3213-8391/Fax : 03-3213-8399  
URL : <http://infocom.haradacorp.co.jp>  
E-Mail : [sales-info@haradacorp.co.jp](mailto:sales-info@haradacorp.co.jp)